

訪日客に楽しい旅を

瀬戸内海観光課題探る

中区でフォーラム エコツアーなど報告



外国人観光客を満足させる瀬戸内海での観光の在り方を考えるフォーラム

瀬戸内海の自然や文化など魅力ある資源を生かした外国人観光客の誘致策を考える「エコツアーリズムフォーラム」が27日、広島市中

区の広島国際会議場であった。県や呉、廿日市市などをつくる瀬戸内ツーリズム推進協議会の主催。現状や活動報告を通じ課題を探った。

日本政府観光局イン

パウンド戦略部地域プロモーション連携室の広瀬正彦室長が基調講演。約80人を前に、データを交えて現状や誘致戦略を説明した。外国人目線の観光資源の発掘や、ストーリー性を持たせた広域連携の重要性を訴えた。同協議会の上嶋英機会長は昨年、宮島(廿日市市)で開いたエコツアーについて報告。外国人も参加し、島内で神社巡りや生物観察、漂着ごみの清掃などをしたという。「体験を通じ、瀬戸内海全体を長く守っていければ」と話した。

市内のゲストハウスのスタッフや県の担当者らが登壇。訪れる外国人観光客を満足させるためには「案内ができる人材育成が大切」との意見が多く出た。

(渡辺裕明)